

めぐみ

2023年 7・8月号

学校法人 聖公会北関東学園
認定こども園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

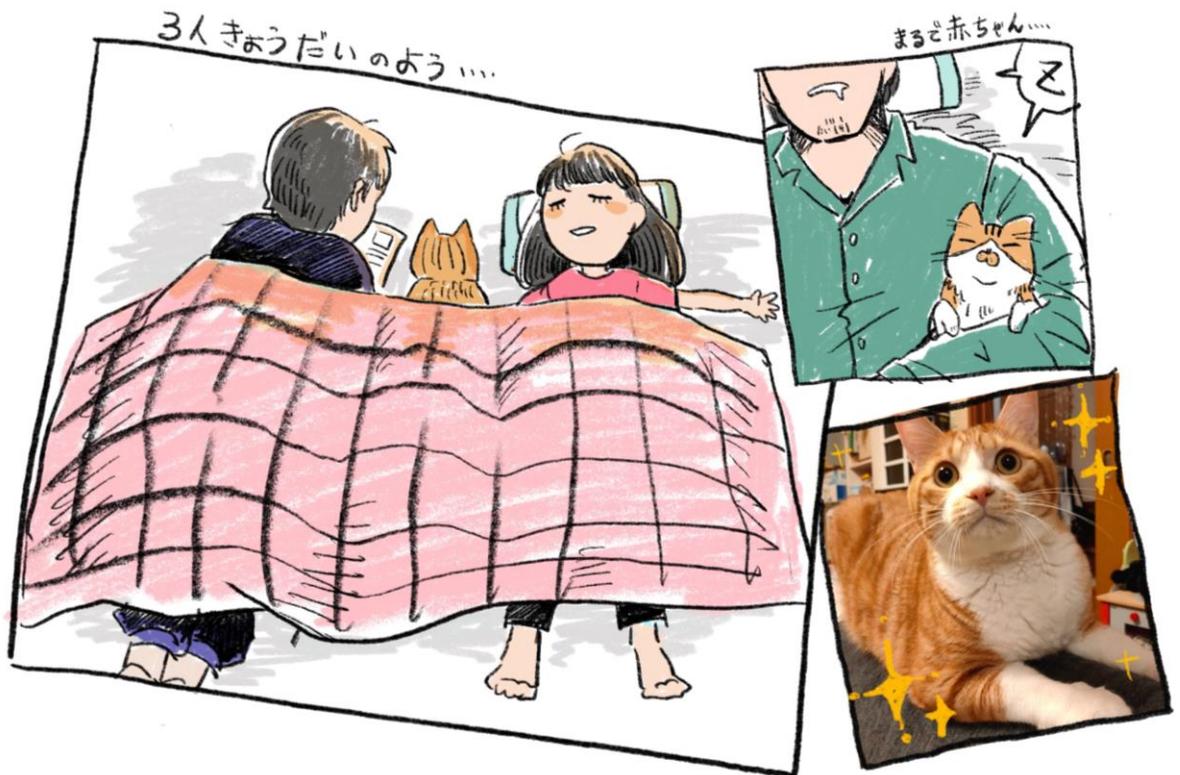
わが家の3きょうだい!?

補助職員 宇野奈緒美

わが家には3人の子どもがいます。長男の航太朗、長女の帆乃果、そして…次男の「めばる(猫)」です。

3歳になるめばるは雑種のオスで体重が8キロ近くあり、人間の1歳児くらいのサイズ感です。保護された時に持っていた野生(夜に大運動会を始めてしまう本能や警戒心)は鳴りを潜め、家族と並んで布団に入り、人間の腕に頭を乗せともに眠る姿を見ていると、中身も子どものようです。猫っぽい仕草をしていると、「うわっ猫っぽい!猫がいる!」と感動してしまうくらい人間の世界になじんでいます。ちなみに猫っぽい仕草というのは、干そうとしている布団の上に乗ってくる、畳もうとしている洗濯物の上に乗ってくる、パソコンとキーボードの間に入ってくる、出かけようとしている時にサービスタイム(抱っこしても暴れない貴重な時間)を発動させる、などです。これが噂に聞いていた猫あるある…。でも人間のほうからグイグイと構うとヌルッと逃げるんです。本当におもしろい生き物です。(生き物…なのでおもしろいだけじゃなく大変な部分ももちろんありますが)

長男は来年中学生に、長女は友だち付き合いが増え、親子の時間は減ってきています。寂しい気持ちになった時、ニャーと饒舌に話しかけてくる次男がいると笑顔になれます。家族というのは血の繋がりも種族も関係ないのだから、とあらためて思いました。



今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ
「心ひらかれて」

今月のねがい

○夏の自然界に目を向け、心と身体を解放させて遊ぶ

○心を合わせて祈る

学年別のねがい

(1歳) 心満たされて過ごす

(2歳・満3歳) 身体を元気に動かす

(年少組) 身体を存分に使って遊ぶ

(年中組) 友だちとお互いに思いを出し合いながら過ごす

(年長組) キャンプを通して、友だちや保育者との仲や信頼を深める

ひとこと

暑い夏は子どもたちにとって水遊び泥んこ遊びを存分に楽しむことのできる季節です。水と泥は子どもたちの心を自然に開放させてくれます。開かれた心で友だちや先生と過ごし、いっしょに夏の自然を発見したり驚いたりする経験をたくさんしてほしいと思います。

年長組は草津キャンプに出かけます。おうちのひとと離れ、友だちや先生と自然の中で過ごす二泊三日。やり遂げて帰ってきた子どもたちの自信あふれる姿が楽しみです。

今月の聖歌 「そらのとりは」

今月の歌

「南の島のハメハメハ大王」



★予定★

日	曜	行事などの予定
1	土	就労家庭保育実施日
2	日	
3	月	
4	火	保健安全委員会 (希望者)
5	水	7月生まれ誕生会
6	木	アルミ缶回収
7	金	全体礼拝 ↓
8	土	保育部参観・懇談会 就労家庭保育実施日
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	おはなしの会 (年中長組)
13	木	短縮保育 (幼児部)
14	金	終業式・短縮保育 (幼児部)
15	土	就労家庭保育実施日
16	日	
17	月	海の日
18	火	キャンプ準備会・幼児部夏休み
19	水	すみれ組キャンプ
20	木	↓
21	金	↓
22	土	就労家庭保育実施日
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	プレイデイ 職員会議③
8月		
5	土	就労家庭保育実施日 保護者・教職員交流会
11	金	山の日 幼児部預かり保育休み (~15日)
12	土	↓
13	日	↓
14	月	↓
15	火	↓
26	土	就労家庭保育実施日 職員会議④ お父さんとの交流会
30	水	始業式・短縮保育 (幼児部)
31	木	8月生まれ誕生会 短縮保育 (幼児部)

チャプレンのページ



今日を生きる

明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。
その日の苦勞は、その日だけで十分である

マタイによる福音書 第6章 34節

梅雨に入り、雨の季節がやってきました。本年は梅雨入り前から激しい雨が降って各地で被害が発生しています。こうしたニュースに触れるたび、自然の力の大きさと人間の無力さを痛感するとともに、子どもたちの元気な声を聴きながら、彼らの成長により夏が訪れるようにと願わずにはいられません。幼稚園のこどもたちにとって、彼らが園児である間に訪れる夏は、人生の中でほんのわずかな回数かもしれませんが、最も思い出に残る大切な季節でもあると思わされます。

さて、春はどこでも健康診断が行われる季節です。5月初旬に健診を受け、5月末に幼稚園で結果が渡されましたので見てみましたところ、胃がんの疑いがあるので精密検査を受けるようにと書かれていました。このような指摘を受けたのは初めてで大きなショックを受けました。かかりつけの病院があるわけではないので、検査をした病院で紹介をしていただき、予約を取って精密検査に行きました。担当のお医者様から、がんの可能性は低いが必要なお話があり、不安と安堵が入り混じる日々が続いています。

冒頭の聖句は、イエス様がガリラヤ湖にほど近い山、山というより丘に近い場所ですが、大勢の人々の前でお話をされた一部になります。この一連のお話を「山上の説教」または「山上の垂訓」と呼んでいます。ちなみにイエス様が、お祈りする時にはこのようにお祈りしなさいと、主の祈りを教えてくださったのも山上の説教の時になります。

人間は、明日はおろか、数分先のこともわからないのだからその日その日を精いっぱい生きることが大切とことが語られています。このことを私自身、牧師やチャプレンとして働く中で何回もお伝えしてきました。しかし今回、一時的ではありましたが自分の命がもうすぐ終わるかもしれない状況になり、自分が語ってきたことをどれだけ自分自身実践できただろうかと反省させられました。人に語るだけで自分自身が行っていないのであれば、それは実存を伴いませんし、頭の上を通り過ぎる観念でしかありません。

イエス様は、ご自身のすべてをかけて聖書の教えを語られました。何一つ、罪を犯したわけではないにもかかわらず、当時最も罪の重い人に適用される十字架刑を受けたのも、すべての人の罪を負って命をささげ、永遠の命へ招くためであったと聖書は語っています。そこにはイエス様の命すべてがかけられていたのです。聖書の言葉、教えは、すべてイエス様の命をかけた言葉であることを改めて覚えたいと思います。

(鈴木 伸明)

クラスの窓



つくし組

梅雨だからこそ



雨で大好きな散歩に出られない…。そんな日はホールで体をたくさん動かして遊んでいます。「さんぽ」の曲に合わせてホールをぐるぐる歩くのがブーム。最近は、短時間ですが、保育者や友だちと手をつないで、曲に合わせて歩くことを楽しむようにもなりました。小さな手を握り合いヨチヨチ歩く姿がかわいいこと！自然と周りの大人はほほえんでしまいます。

雨上がりには、「待っていました！」と泥んこ遊びが始まります。初めは裸足に抵抗がある子もいたのですが、経験を重ねていくうちに、「くっくかないない」と裸足になりたがり全身で感触を楽しむ子、シャベルを使ったりカップに入れたりしながら、保育者と見立て遊びを楽しむ子。ペチャペチャ、ヌルヌルの感触を自分のペースで楽しみながら、おもしろさや不思議さを感じているよう

です。たくさん遊んだ後はシャワーを浴びてスッキリ！水好きな子にとってはシャワーを浴びることも楽しみの一つです。

泥んこ物のお洗濯のご協力、いつもありがとうございます！

もも組

雨の日だから楽しい日

雨の日だとどうしても「雨か～」と思ってしまいがちですが、子どもたちは朝から「今日は長靴履いてきたよ」と嬉しそう。そしてそのままウッドデッキへ。最初は「雨に濡れちゃう」と屋根の下から手を出す程度だったのに、いつの間にか空き容器やバケツに雨水を溜め出し、いろいろなところがびしょびしょになっていました。もちろんすぐにお着替えしましたが、まだまだ水に濡れたそうでした。

また別の雨の日はカッパを着てお散歩へ。少し前に「カッパを着てお散歩に行こう」と伝えていたのに、雨が止んで結局着れなかった日があり、「今日こそは」と園の周りをぐるっとお散歩。葉っぱを触ると雨水がパラパラッと落ちるのが楽しくて何度も繰り返し葉っぱを「トントン！」。また、水たまりをのぞくと「あ、みんなの顔が見える！」と喜んだり、思い切りジャンプして水たまりを越えようとがんばってみたり、そのまま入ってしまった。雨の日でもこんなに楽しめてしまう子どもたち。むしろ雨の日だから楽しい日になりました♪

ちゅうりっぷ組

季節の実りに夢中！

梅、びわ、すもも。様々な種類の季節の実りに子どもたちは夢中です。今年は何の果物も豊作で、特にブランコ横にあるびわの木にはたくさんの実ができました。去年は一人一個のお約束でしたが、今年は食べきれないほどの量でした。オレンジ色になるのを待ちきれず、少し緑色の実を食べると「すっぱい！」と口をすぼめる子や、「すっぱい方が好き」とパクパク食べる子もいます。

最初は大人の手が届くところにあっただけで、子どもたちが食べたいと言えさず採れました。次第に実も少しずつ減っていき、大人でも限界になり枝切りバサミの登場です。大人の身長よりも長い道具に子どもたちも「すごーい」「がんばれ」など応援してくれました。太陽の日をたくさん浴びたオレンジ色のびわはとても甘く、「美味しいね」「甘い」と嬉しそうに食べています。他の友だちにも分けてあげようと「びわ屋さん」が始まりました。「いらっしやいませ！びわいかがですか」の呼び掛けにすみれ組やたんぼ組の子どもたちも集まり、「おいしい！」と食べてくれました。これからも、園で栽培している食べ物の観察を通じて、旬の食材について一緒に考え、そして感謝していきたいと思ひます。

たんぼ組

みんなで遊ぶ楽しさを存分に味わい、仲を深めて



気の合う友だちと遊びを楽しんでいるたんぼ組。友だちの輪を広げて、クラスみんなで遊べる機会を増やしたいと思っていた今日この頃、段々と「氷鬼する人お山に集合」と大勢で遊ぶ姿が増えてきました。そんな中、Aくんはいつも「ぼくはやらない」と見ているだけのことが続いていました。

ある日、Aくんが「鬼だったらやろうかな」と参加することになりました。喜んだたんぼ組のみんな。この日の氷鬼は、とても盛り上がり、Aくんも夢中で、みんなを追いかけました。その最中に、Aくんが転んでしまいました。肘を擦りむき、涙するAくん。みんなも「大丈夫？」と集まりました。「でこぼこだから、転んじゃうんだよ。平らにしたらいいんじゃない」と早速トンボを使って土慣らしが始まりました。「何やってるの」「じゃあ、手伝うよ。お水を撒いて、土を柔らかくしようか」と、工事の輪が広がります。みんながAくんを思いやり、一生懸命な姿に感動してしまいました。みんなで遊ぶ楽しさを存分に味わって、仲を深めていっている姿は、素敵だなと思ひました。

すみれ組

野菜の観察、気づき、実験、収穫、調理まで！

4月に植えたナス、トマト、きゅうりがみるみる成長し、立派な実を实らせました。毎朝登園後じっくりと観察すると、小さな変化に気が付きます。みんなの発見はとても鋭くおもしろい！トマトの葉っぱは臭いと知れば、触った互いの手を嗅ぎ合ったり、ナスは紫外線で紫色に

なることを図鑑で知ると、袋を付けて紫外線を遮って育てる実験をしたりもしています。待ちきれなくて「一瞬だけ」と袋を開けて色をチェックする毎日です♪

収穫後はどんな味付けで食べるか話し合い、自分たちで調理します。最初は塩や醤油などシンプルな味付けで、苦手な子は舐めてみるどころから挑戦していました。きゅうりの塩昆布やナスの味噌チーズ焼き、ついには麻婆茄子まで作ってみると、それぞれが自分の好きな味を見つけ、食べられるようになってきました。「お家でも食べれた」「お母さんの料理のお手伝いをしたんだよ」と得意げに話す姿もあります。苦手な野菜を食べられたことは少しずつ自信になっているようです。今は夏の草津キャンプに向けて、意識的にお箸を使ったり、食べこぼしゼロ作戦にも取り組んでいます。この野菜のように、みんなの心も体も丈夫に大きくなっていきますように！

わが家のまど

(283) 誰かを思い浮かべて作る楽しさ

すみれ組担当教諭 大川戸菜緒



※指輪は買いました

昨年、めぐみの表紙にアクセサリーの2つの資格取得のため、勉強を始めたことを書きました。その後、期限ギリギリにレポート提出とテストを済ませ、無事に両方の資格が取れました。しかし、そこで完全燃焼したのか、全くやる気が出ず...資格を取ってからの半年、ほとんど何も作っていませんでした。そんな時、友だちから「赤ちゃんを授かった」という嬉しい知らせが入り、久しぶりに道具を出し、レジンでマタニティマークを作り、プレゼントしました（写真右下の星）そんな話を事務室でしていたところ、「売ったらいいのに！」との声。私としても、せっかく資格を取ったから、販売をしようかとも思いましたが、周りの人にプレゼントしてばかり...。ずっと踏み出せずにいます。そんな時ふと思ったのが、自分の好みで作ったり、送る相手を思い浮かべて作る時がとてもウキウキしているということ！資格のために作っている時は

楽しくありませんでした。今まで作ってきたものには、どれも思い入れがあり、お店でパーツを見ながらどんなのを作ろうかと考え、帰ってすぐに取り掛かっている場面を鮮明に覚えてます。写真のほとんどが資格取得前に作った物ですが、作り初めの頃、「これだけ大きければきっと全部しまえる！」そう思って買ったジュエリーボックスにもはや収まらなくなり、今では100均のケースにしまわれていきます。いつの日か販売をしてみたいと思いますが、重たい腰が上がるのはきっと数年後。それまでは自分の中で楽しみたいと思います。



この写真は、私の実家の近くにある小さな公園で撮影しました。春休みに私の妹家族と旅行に行くことになっていて、妹が旅行前日に子どもたちの写真（上）を送ってきたので、旅行当日にわが子たちも真似をしたものです。いつもは写真撮影はNG、ろくに笑顔を見せない二人がご機嫌だったので珍しかったです。でも…思えばここはわが子たちにとって特別な場所でした。

わが子たちは、この公園ができた時からずっとここで遊んでいました。日曜日の早朝から、子ども用の足漕ぎ車で爆走して遊びに行きました。カナヘビの餌のクモを捕り、実家の隣りに住んでいた90歳になるおばあちゃんを連れ出し、ベンチでおやつを食べました。藤棚にできた種をジャンプして採ったり、砂場の砂をすべて集めて大きな山を作りました。お金を拾ったこともありました。ブランコ、鬼ごっこ、かくれんぼ、水遊び、サッカーや野球…ずっと遊びたい子どもたちと、早く家に帰ってゆっくり過ごしたかった私。今思えば、もっともっと一緒に遊べばよかったな…。

公園には、旅行の前に少し立ち寄っただけでしたが、思い出話で盛り上がりました。3年前まで遊んでいたはずなのに、二人にとってはもう思い出の場所になっているのを感じました。よく見れば、新品だった遊具も古くなっています。「今度子どもたちとここに来るのはいつになるかな」なんて思いながら、子離れしていかなきゃと痛感しました。



今月の聖書のおはなし



☆ 7月7日「ふたごの兄弟物語」

創世記25:19～34、27:1～45

アブラハムの息子イサクは、リベカという女の人と結婚しました。後に双子の赤ちゃんが産まれました。2人は成長し、兄のエサウは狩りをする人、弟のヤコブは家の仕事をする人になりました。ある時、お腹が空いて仕方がないエサウは、食べ物を求めてヤコブに自分の持っている権利を譲る約束をしました。

その後何年か経って、父イサクは兄のエサウに獲物をとってこさせ、祝福して権利を譲ろうと考えました。しかし、それを知った母リベカは、弟のヤコブにそのことを知らせ、先にヤコブが獲物をもっていったのです。目の悪い父イサクは、獲物をもってきたのが弟のヤコブだとは気づかず、祝福をしました。実は、弟のヤコブが後継になることは、2人が生まれる前から、神様がお決めになっていたのです。

しかし、兄イサクは激しく怒って、ヤコブを殺してしまおうと考えました。これを知った母リベカはヤコブを逃し、ヤコブは遠い場所で暮らすことになりました。